

みなさんこんにちば。
 いよいよ12月。寒い日が続いていますが、それぞれの進路目標に向かって努力を続けていますか。

現役生の力は試験開始のチャイムが鳴るまで伸びる

決して気休めで言っているわけではありません。厳然たる事実です。そのために今みなさんができる唯一のこととは何か？ それはこれまでの努力で培った自分の実力を信じ、さらに入試までに残された時間を大切に頑張ることです。例えば、ほとんどの教室に掲げられている「センター試験まであと〇〇日」という言葉。「あと〇〇日」と言われるとかえって焦りを感じる人もいるでしょう。しかし、見方を変えれば「まだ〇〇日」あるわけです。とにかく今できることをきちんと整理して、できることから確実に始めるようにしましょう。

また、皆さんの中には、すでに合格通知を手にした人もいますね。おめでとうございます。もちろんこれであなたの「学習」が終わったわけではありません。来年度へ向けてしっかりと準備をしておきましょう。そしてできることならば、周囲にたくさんいるだろうこれから入試に向かう仲間の「心の支え」となり、数ヶ月後にその仲間とともに進路実現を喜び合えるようにしてあげてください。

というわけで、今回の進路ニュースは受験直前にあるみなさんに、参考にしてもらいたいいくつかの話題について提供していこうと考えています。

〇直前演習を最大限に利用しましょう

期末考査終了後からすでに開始されている直前演習ですが、無駄なくその全てを活用していますか？ 直前演習は「ただの問題演習」ではありません。まずは演習そのもので試験本番の緊張感を味わいましょう。この緊張感を演出するためには、演習参加者全ての真剣な取り組みが不可欠です。幸いにも演習前には清掃があります。まずは環境を整え、そして心を整え、いつも新鮮で前向きな姿勢で演習に臨みましょう。また、演習を繰り返すことで問題を解く時間配分も練習してみてください。

次に自己採点で正確な採点の練習をしましょう。これまでの模試でも、自己採点は何度か行ってきたことと思います。返ってきた結果と比較してどうでしたか？「ぴったり一致した」という人は案外少ないのではないのでしょうか。これは結構深刻な問題です。みなさんの多くは、センター試験の結果を見て、ある程度合格する確証をもって大学に出願するはずですが、しかし、センター試験でとったあなたの実際の得点が、もし自己採点結果より低かったとしたら…。「たかが10点～20点」でもその影響は決して小さくないのです。進路指導部では毎日みなさんの自己採点結果をチェックしていますが、小問ごとの足し算でさえ間違えている人が、少なからず見受けられます。

最後にその日の演習を復習することで、自分の弱点補強をしましょう。あなたが今日の演習で正解できなかったところ。いつもそこで間違えているところではありませんか？ また、「ここは苦手」というところではありますか？ その日のうちにそこを中心に勉強し、考え方や解き方を身に付けましょう。もう、あとまわしにしている暇はないのですから。

「直前演習が役に立った」毎年何人もの3年生から聞かれる言葉です。そう、直前演習はみなさんの実力に最後のひと伸びを加えることのできる「宝の山」なのです。

〇出願の準備はOK？

この時期に勉強と同時にしておきたいこと。それが出願の準備です。「センター試験も終わっていないのに、まだ早いのでは…」そう思っている人はいませんか？

例えば、国公立大学の出願受付は来月末から始まります。あと1ヶ月余りです。ここ1ヶ月のことを考えてみましょう。たぶん、「早く過ぎたなあ」と感じる人が多いはずですね。たぶんこれからも同じです。ことによるともっと早く感じるかもしれません。

「出願に間に合わなかった」とか「つい忘れていた」では、これまでの努力がそれこそ水の泡です。出願の準備そのものは物質的なことなので、その気があれば勉強以上に誰でもできることなのです。忘れる前にしっかりと準備しておきましょう。それでは今の時期に準備しておく、余裕をもって出願を迎えられることについて、いくつか挙げてみましょう。

準備① 願書(試験要項含む)

→まずはこれがないと始まりません。その大学の入試についての情報が全て書いてあります。直前に入手しようとして、もし品切れだった時には対処できません。また不慣れなことも手伝って、願書の作成には意外に時間がかかるものです。「学校にあるものを使えばいい」と安易に構えている人。誰の入試なのか、よく考えましょう。これも「受験生である今でしかできない経験」と考え、出願する可能性のある大学のものは全て、自分の力で取り寄せてみるくらいの主体性を持ちましょう。

準備② 写真

→願書や受験票にはほぼ例外なく必要になります。いわゆるインスタント写真ではなく、写真屋さんでネガや電子データの残る写真を撮ってもらうようにしましょう。そうすればいつでも必要なサイズを必要枚数入手することができます。なお、センター試験の受験票にも2枚(4cm×3cm)が必要です。

準備③ 受験日程

→各大学によって異なる出願締切日・受験日・発表日・入学手続き(入学金等の納入)締切日等の情報を全て1枚の紙に書き出して、無理や無駄がないかを確認しましょう。いくつかの大学を併願する人では、欠かせない作業です。裏面に1～3月のスケジュール表を印刷してありますので、ぜひ使ってみてください。

準備④ 宿泊予約

→人によっては不要ですが、例えば県外で受験するため「日帰り」できない場合には宿泊が必要です。受験生の宿として適切な宿泊施設は入試シーズンに向け、どんどん予約で埋まっていくようです。すでに受験する大学が決定しているならば、できるだけ早めに予約をしておくことをお勧めします。なお、大学によっては宿の斡旋をしてくれるところもあるようです。

〇健康管理は大丈夫？

現在のみなさんの体調はいかがですか。多くの人が経験しているところですが、人は体調が悪くなって初めて「体調」という言葉を意識するものです。体調という言葉を意識さえしていないとき、その人の体調は良好な範囲にあるといっているのではないのでしょうか。

では、その良好な体調が崩れるきっかけとなるものは何でしょうか。これはもちろん一概に言えるものではありません。ただ、人間の体とはよくできたもので、多少の変化が体に及ばされても、それに合わせるように体内のさまざまなものは変化し、良好な体調を保っていきます。しかしたまには失敗もします。そのような時、人は「体調が崩れた」ことに気づくことになるのです。

つまり、体に大きくかつ急激な変化を与えないことが、体調を崩す危険性を最小限に抑えるのに効果的ということになります。「これまでどおり」の生活で大きく体調を崩していないのなら、それを続けていきましょう。もちろんそれが規則正しい生活であればいいことはありません。ただし、受験というものは多かれ少なかれ、日々その人にストレスを与えていくものです。無理は禁物です。



〇(くといようですが…)センター試験対策の要点

国公立大学を目指す人にとっての第一関門である、センター試験まで1ヶ月となりました。対策は万全ですか？ 多くの人が、例えば各教室に置いてある入試関連雑誌等で情報を仕入れ、それを自分なりに解釈して日々の学習に反映させていると思います。しかし最後にもう一度だけ、要点をおさらいしておきましょう。

要点① 過去問を解く

かつて出題された問題が再登場する可能性があります。もちろん、「そっくりそのまま」というわけではないでしょうが、過去問を解くことにはこれまで以上の意味があるということになります。

要点② センター試験は基礎・基本が第一

何度も聞いた言葉でしょう。「ここが出る」かも知れないので「そこだけ」をする。難しい問題がたまにたまに、自分の実力を錯覚する。そしてセンター試験の結果に「失敗した」と的を外れたことをいう。基礎・基本を大切にしない人の例年のパターンです。教科書の内容…あなたは大丈夫ですね。

みなさんにとって来年がよい年であるよう、進路指導部一同、お祈りします

入試日程スケジュール表（2007年1月～3月）

1月																			2月																										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
								始業式													自己採点								卒業考査	卒業考査															

センター試験を課さない
推薦入試の結果発表

↑
センター試験の得点調整の
有無の発表(予定)

— 国公立大学の出願受付期間 —

前中期日程の2段階選抜
及び、センター試験を課す
推薦入試の結果発表

[illegible]

※ 各日程については大学によって異なる場合がありますので、必ず募集要項で確認しましょう。

※ 例えば、□：出願日、☆：試験日、○：発表日、◎：入学手続日として、それらを線で結び、□——☆——○——◎のように記入するなど、工夫してみましょう。
(大学名) (試験地) (時刻や方法)